

安倍政権の外交政策 —領土問題と歴史問題を中心に—

京都産業大学世界問題研究所長、教授
東郷和彦

- *戦後初めての危機に直面
- *日ソ間の交渉に学ぶ
- *韓国との四つの問題
- *筋道ができている慰安婦問題
- *竹島には共存の知恵で
- *手の打ちようがない強制労働訴訟
- *「引き分け」の北方領土とは
- *歴史認識問題「危機の40日」
- *戦後レジームに三つの側面
- *ビジョンある国づくり



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、アジア平和貢献センターとの共催ということで、2012年11月には小坂文乃さんにおいていただきましたが、今回は東郷和彦さんにお話をいただくことになりました。ご存じのように三代にわたる有名な外交官をされて、10年ほど前に退官されました。

特にロシアについては経験もたいへん豊富でございますし、外務省そのものというよりも、たいへんはつきりしたご意見をお持ちの方でございませう。今、アジア、ロシアでは解きほぐさなければならぬ問題がいろいろありますが、これらの問題について思慮深いご意見をいただけるのではないかと思います。それでは東郷さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

東郷 皆さんこんにちは。東郷和彦でございます。ご案内かと思いますが、私は1968年に外務省に入り、外務省で34年間仕事をしてまいりまして、そのちょうど半分を対ロシア、ソ連外交をやってまいりました。したがって、外務省の現役時代の私の最大のテーマは北方領土問題でして、2002年に退官して10年ちょっとになりますけれども、気持ちのうえでは北方領土とロシアのことは片時も忘れられません。ですから北方領土の話を始めますと止まらなくなりませう。

最後の仕事がオランダの大使でしたけれども、2002年に外務省を辞めたときオランダの人たちから、辞めて行くところが無いのだったらぜひ戻ってこないかというたいへんありがたい